

平成26年度全国学力・学習状況調査 結果・分析

平成26年11月
津市教育委員会

全国学力・学習状況調査によって、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、教育活動の質を高めるために有効なデータが得られるとともに、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を育てるために、とくに力を入れるべき点を明確にすることができます。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における津市立小中学校の児童生徒の学力や学習状況の概要を、公表するとともに、指導改善につなげるために、分析結果及び今後の改善方策などを掲載します。

【目次】

1	調査の概要	1
2	調査結果	
(1)	教科に関する調査	
①	各教科正答の状況	3
②	無解答率の状況	3
③	小学校国語	4
④	小学校算数	6
⑤	中学校国語	8
⑥	中学校数学	10
(2)	生活習慣や学習環境等についての調査	
①	学校質問紙の結果	12
②	児童生徒質問紙の結果	17
3	今後の改善方策	19

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 津市教育委員会、学校が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。
- ② 市内のすべての学校が、各児童生徒の学力や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てます。

(2) 実施日 平成 26 年 4 月 22 日 (火)

(3) 調査対象

- ① 小学校第 6 学年、特別支援学校小学部第 6 学年
- ② 中学校第 3 学年、特別支援学校中学部第 3 学年
特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科(国語、算数・数学)について、該当学年の指導内容で学習している児童生徒は、原則として調査の対象となります。

(4) 調査内容

- ① 教科に関する調査
 - ・ 国語 A、算数・数学 A
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など(主として「知識」に関する問題)を中心とした出題
 - ・ 国語 B、算数・数学 B
知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容(主として「活用」に関する問題)を中心とした出題
- ② 質問紙調査
 - ・ 質問紙調査
調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査(以下「児童生徒質問紙調査」)
 - ・ 学校に対する質問紙調査
学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査(以下「学校質問紙調査」)

(5) 調査実施児童生徒数(津市)

小学校第 6 学年 約 2,400 人、中学校第 3 学年 約 2,220 人

(6) 留意点

① 調査結果の取り扱い

- ・ 調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげます。
- ・ 調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮します。

② 教科に関する調査

- ・ 教科ごとに、平均正答数、平均正答率、正答数分布グラフとともに、学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式ごとに、正答率と全国平均との差を記載しました。
- ・ A問題で、平均正答率が60%以下の問題、B問題で、平均正答率が50%以下の問題を大きな課題がある問題として個々に示しました。

③ 生活習慣や学習環境に関する調査

- ・ 児童生徒質問紙からは、学力と相関が強いものを取り上げて経年変化を示しました。
- ・ 学校質問紙については、全国平均と比べて10ポイント以上低いもの、数値が低い項目を中心に取り上げました。特に、選択肢「1（よく行っている）」を、学校全体として取り組まれているものと考え、重視しました。

2 調査結果

(1) 教科に関する調査

① 各教科正答の状況（公立学校のみ）

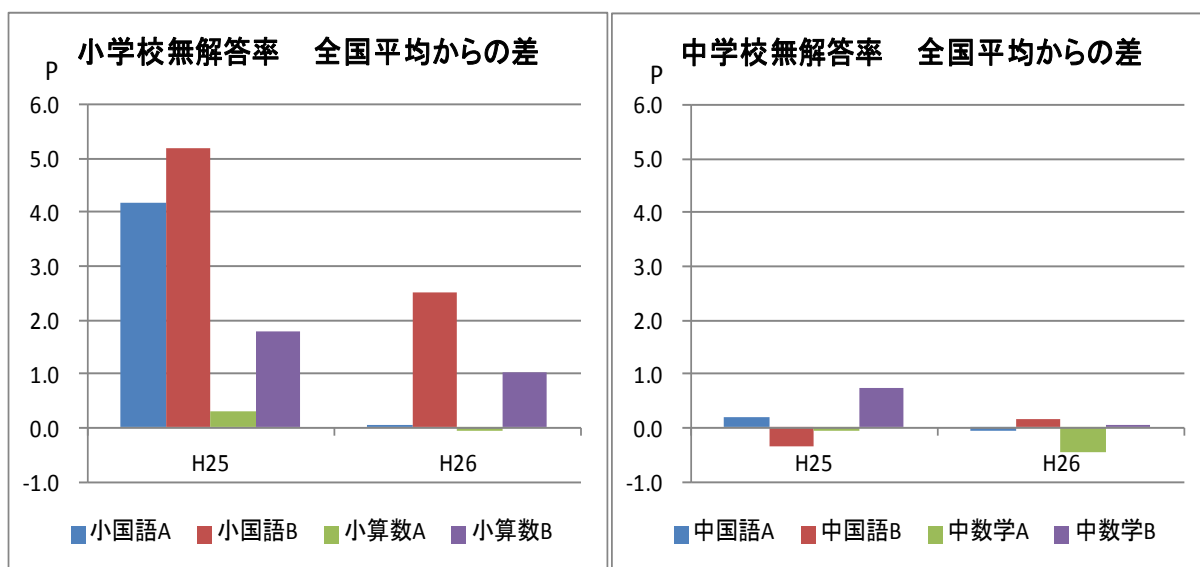
H26	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		数学	
	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)
全国 平均正答率	72.9%	55.5%	78.1%	58.2%	79.4%	51.0%	67.4%	59.8%
三重県 平均正答率	69.6%	52.5%	76.2%	56.0%	78.0%	49.0%	67.1%	58.3%
津市 平均正答率	73.8%	53.3%	78.4%	57.7%	78.7%	49.9%	68.1%	58.8%
津市 平均正答率 全国比較	+0.9p	-2.2p	+0.3p	-0.5p	-0.7p	-1.1p	+0.7p	-1.0p
全国 平均正答数	10.9問 /15問	5.5問 /10問	13.3問 /17問	7.6問 /13問	25.4問 /32問	4.6問 /9問	24.3問 /36問	9.0問 /15問
三重県 平均正答数	10.4問 /15問	5.3問 /10問	13.0問 /17問	7.3問 /13問	25.0問 /32問	4.4問 /9問	24.2問 /36問	8.7問 /15問
津市 平均正答数	11.1問 /15問	5.3問 /10問	13.3問 /17問	7.5問 /13問	25.2問 /32問	4.5問 /9問	24.5問 /36問	8.8問 /15問
全国 (国公立) 標準化 得点	100	100	100	100	100	100	100	100
三重県 標準化得点	98	99	99	99	99	99	100	99
津市 標準化得点	100	99	100	100	99	100	100	99

※平均正答数は、小数点第二位を四捨五入した値。

※標準化得点は、全国(国・公・私)の平均正答数が100となるように標準化した得点。

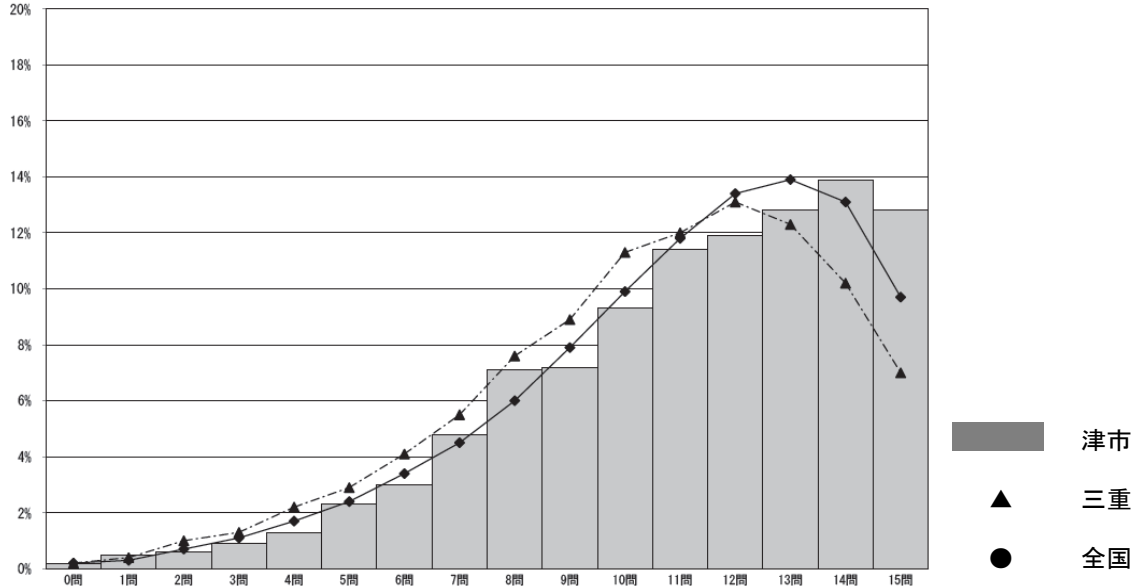
② 無解答率の状況

小学校、中学校ともに、無回答率の改善が見られます。小学校国語B及び算数Bを除いて、全国平均と同じ程度に改善されました。



③ 小学校国語

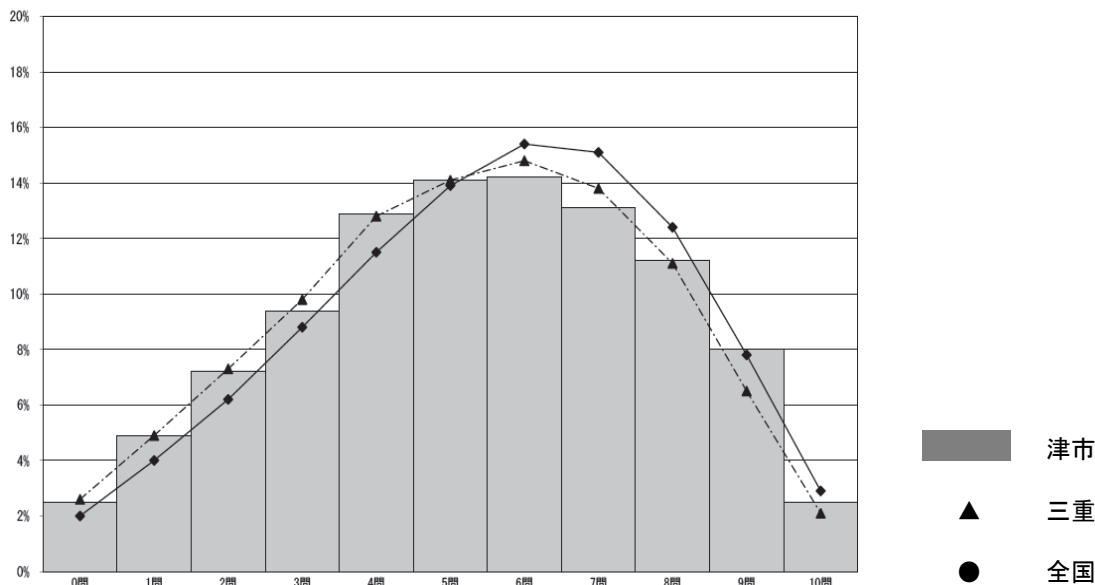
【小学校国語A】



分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)			全国と の差 津-全
			津市	三重県 (公立)	全国 (公立)	
平均正答率		15	73.8	69.6	72.9	0.9
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	1	71.1	70.5	72.4	▲ 1.3
	書くこと	3	70.0	68.6	72.2	▲ 2.2
	読むこと	2	67.6	65.0	68.5	▲ 0.9
	伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	12	75.1	70.2	73.7	1.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0				
	話す・聞く能力	1	71.1	70.5	72.4	▲ 1.3
	書く能力	3	70.0	68.6	72.2	▲ 2.2
	読む能力	2	67.6	65.0	68.5	▲ 0.9
	言語についての知識・理解・技能	12	75.1	70.2	73.7	1.4
問題形式	選択式	7	66.6	62.2	66.6	0.0
	短答式	8	80.1	76.0	78.5	1.6
	記述式	0				

- 漢字の読みや書きは、相当数の児童ができています。[A1一・二]
- 仮定の表現として、適切なものを捉えることは、おおむねできています。[A6二]
- 物語を創作する際、情景描写の効果を捉えることに課題があります。[A3]
- 故事成語の意味や使い方を理解することに課題があります。[A2]

【小学校国語B】

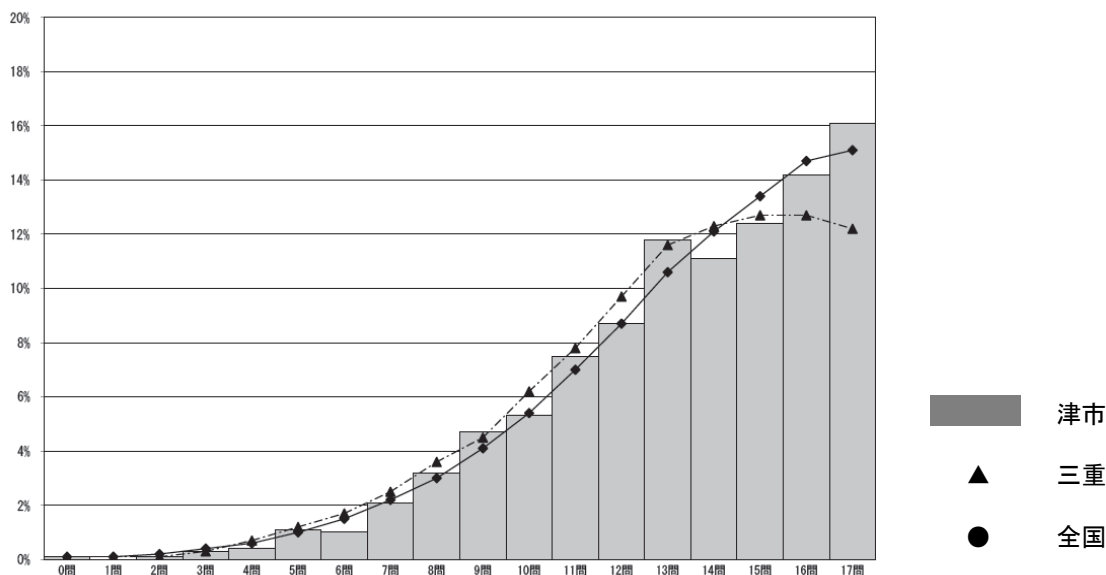


分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)			全国と の差 津-全
			津市	三重県 (公立)	全国 (公立)	
平均正答率		10	53.3	52.5	55.5	▲ 2.2
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	51.4	48.9	51.2	0.2
	書くこと	3	31.1	31.0	34.4	▲ 3.3
	読むこと	7	54.2	54.1	57.3	▲ 3.1
	伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	2	67.0	67.6	69.8	▲ 2.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	31.1	31.0	34.4	▲ 3.3
	話す・聞く能力	3	51.4	48.9	51.2	0.2
	書く能力	3	31.1	31.0	34.4	▲ 3.3
	読む能力	7	54.2	54.1	57.3	▲ 3.1
	言語についての知識・理解・技能	2	67.0	67.6	69.8	▲ 2.8
問題形式	選択式	4	60.0	59.6	62.1	▲ 2.1
	短答式	3	66.7	64.7	67.7	▲ 1.0
	記述式	3	31.1	31.0	34.4	▲ 3.3

- 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それを関連付けながらまとめて書くことに課題があります。 [B2二]
- 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことに課題があります。 [B3三]
- 立場や根拠を明確にして発言をすることに、依然として課題があります。 [B1三]
- 詩の解釈における着眼点の違いを捉えることに課題があります。 [B3二]

④ 小学校算数

【小学校算数A】



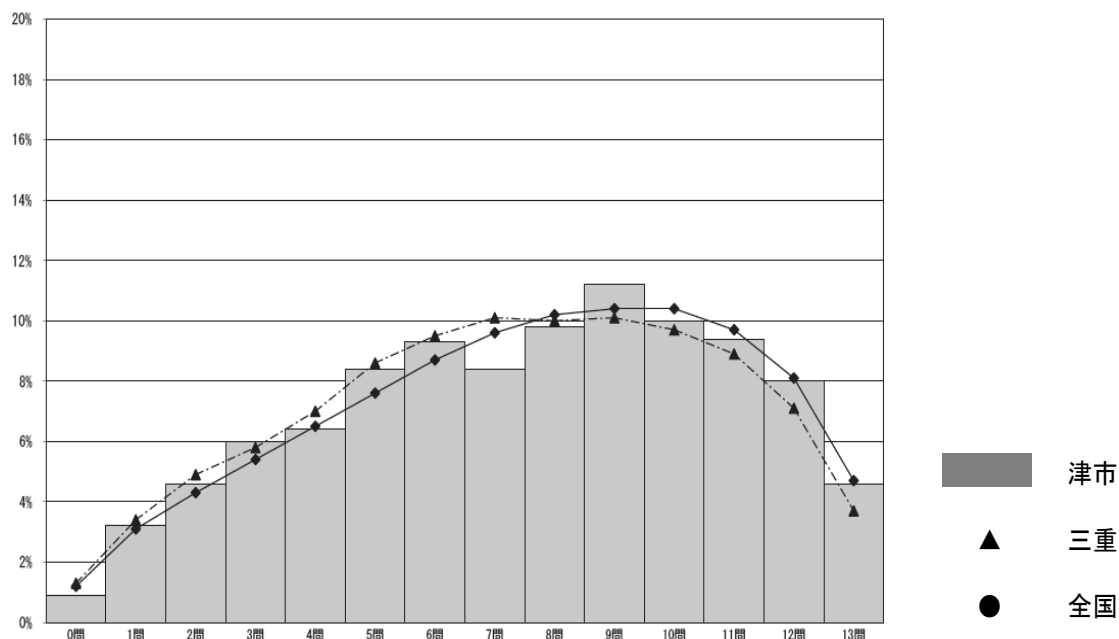
分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)			全国と の差 津-全
			津市	三重県 (公立)	全国 (公立)	
平均正答率		17	78.4	76.2	78.1	0.3
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	81.2	80.6	81.8	▲ 0.6
	量と測定	3	74.6	72.2	74.8	▲ 0.2
	図形	4	73.8	68.7	71.8	2.0
	数量関係	3	83.4	80.0	81.3	2.1
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0				
	数学的な考え方	0				
	数量や図形についての技能	8	89.2	87.0	87.9	1.3
	数量や図形についての知識・理解	9	68.8	66.6	69.5	▲ 0.7
問題形式	選択式	8	70.5	68.1	70.7	▲ 0.2
	短答式	9	85.4	83.4	84.8	0.6
	記述式	0				

○ 計算の順序についてのきまりを理解して計算したり、計算のきまりを具体的な場面に置き換えて捉えたりすることについては、相当数の児童ができています。[A1,A8]

● 作図に用いられる図形の約束や性質を理解することに課題があります。[A6]

● 割合が1より大きい場合でも1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)で求められることの理解に課題があります。[A2]

【小学校算数B】

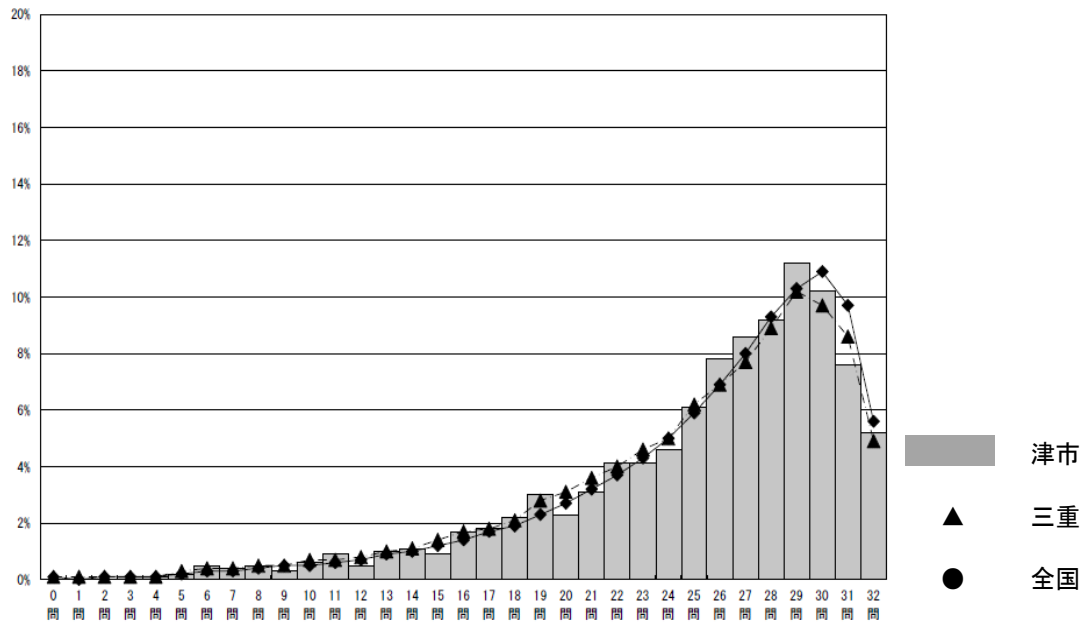


分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)			全国と の差 津-全
			津市	三重県 (公立)	全国 (公立)	
平均正答率		15	57.7	56.0	58.2	▲ 0.5
学習指導要領の 領域等	数と式	8	60.8	58.7	61.3	▲ 0.5
	図形	5	56.8	54.9	56.5	0.3
	関数	1	64.2	64.7	65.7	▲ 1.5
	資料の活用	5	55.5	53.7	56.2	▲ 0.7
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	6	46.3	44.6	47.8	▲ 1.5
	数学的な技能	4	76.5	74.7	76.2	0.3
	数量や図形などについての知識・理解	3	55.2	53.9	54.8	0.4
問題形式	選択式	4	65.3	64.1	64.7	0.6
	短答式	4	62.5	60.1	62.2	0.3
	記述式	5	47.7	46.2	49.7	▲ 2.0

- 示された場面から計算の結果に見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることは、相当数の児童ができます。[B1(1)]
- 数量の大小を比較する際に、根拠となる事柄を過不足なく示し、判断の理由を説明することについて、依然として課題があります。[B3(3)]
- 二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述することに課題があります。[B4(2)]
- 示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述することに課題があります。[B5(3)]
- 示された情報を基に、条件に合う時間を求めることに課題があります。[B3(1)]
- 示された情報を基に、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することに課題があります。[B5(2)]

⑤ 中学校国語

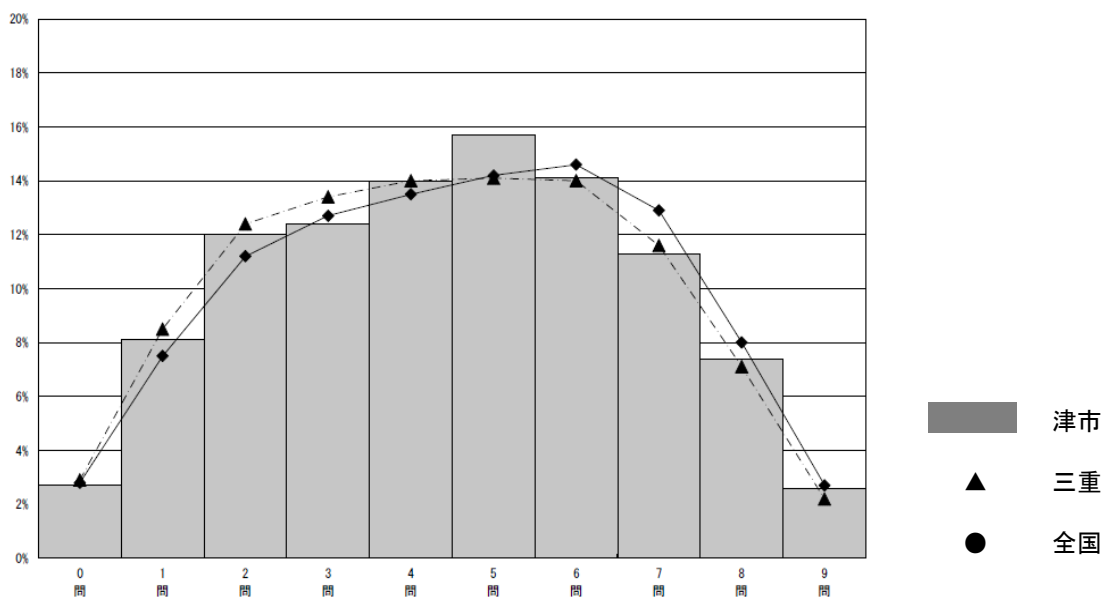
【中学校国語A】



分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)			全国と の差 津-全
			津市	三重県 (公立)	全国 (公立)	
平均正答率		32	78.7	78.0	79.4	▲ 0.7
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	4	70.7	70.3	72.3	▲ 1.6
	書くこと	6	82.7	81.8	83.4	▲ 0.7
	読むこと	5	83.7	81.8	82.9	0.8
	伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	17	77.7	77.4	78.7	▲ 1.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0				
	話す・聞く能力	4	70.7	70.3	72.3	▲ 1.6
	書く能力	6	82.7	81.8	83.4	▲ 0.7
	読む能力	5	83.7	81.8	82.9	0.8
	言語についての知識・理解・技能	17	77.7	77.4	78.7	▲ 1.0
問題形式	選択式	20	83.1	82.1	83.2	▲ 0.1
	短答式	12	71.4	71.2	73.1	▲ 1.7
	記述式	0				

- 心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加えることは、相当数の生徒ができています。〔A 2ー〕
- 登場人物の心情や行動に注意して読んだり、文章全体と部分との関係を考えたりして内容を理解することは、相当数の生徒ができています。〔A 3ー〕、〔A 5二〕
- 文脈に即して漢字を正しく書くこと、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについては、一部に課題があります。〔A 8一、二〕、〔A 8三ア〕
- 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討することに課題があります。〔A 6一〕

【中学校国語B】

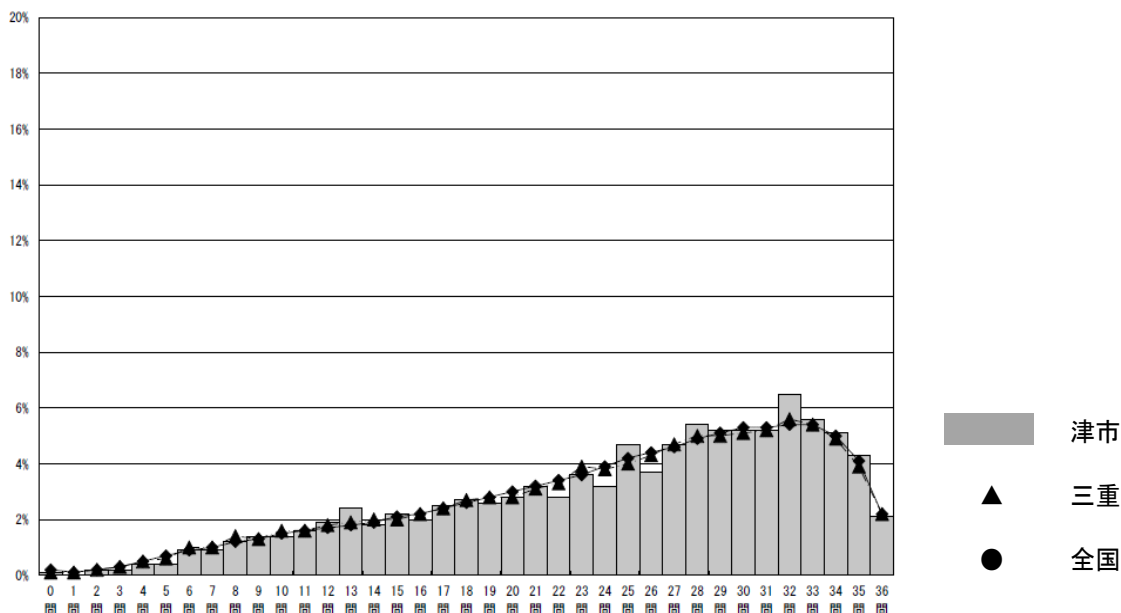


分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)			全国との差 津-全
			津市	三重県(公立)	全国(公立)	
平均正答率		9	49.9	49.0	51.0	▲ 1.1
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0				
	書くこと	3	38.7	38.1	41.0	▲ 2.3
	読むこと	8	48.1	47.0	49.2	▲ 1.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	55.0	54.7	56.8	▲ 1.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	38.7	38.1	41.0	▲ 2.3
	話す・聞く能力	0				
	書く能力	3	38.7	38.1	41.0	▲ 2.3
	読む能力	8	48.1	47.0	49.2	▲ 1.1
	言語についての知識・理解・技能	4	55.0	54.7	56.8	▲ 1.8
問題形式	選択式	6	55.5	54.5	55.9	▲ 0.4
	短答式	0				
	記述式	3	38.7	38.1	41.0	▲ 2.3

- 自分の考えを表す際に、根拠を示すことは意識されていますが、根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する点に課題があります。〔B 1 三、B 2 三〕
- 文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことについて、説明する際に、文章や資料から必要な情報を取り出しているが、それらを用いて伝えたい内容を適切に説明する点に、依然として課題があります。〔B 2 三〕
- 根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに、依然として課題があります。〔B 3 三〕
- 文章の構成や表現の仕方などについて自分の考えをもつことに課題があります。〔B 1 三〕
- 複数の資料を比較して読み、要旨を捉えることに課題があります。〔B 2 一〕

⑥ 中学校数学

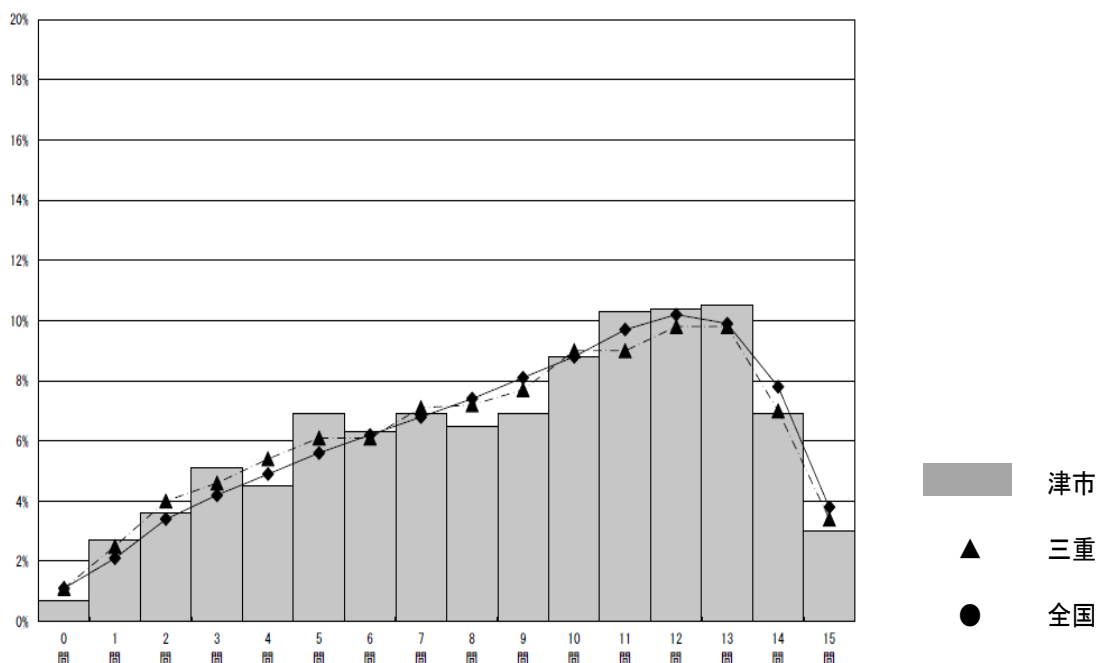
【中学校数学A】



分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)			全国と の差 津-全
			津市	三重県 (公立)	全国 (公立)	
平均正答率		36	68.1	67.1	67.4	0.7
学習指導要領の 領域等	数と式	12	78.8	77.5	77.4	1.4
	図形	12	66.4	65.6	66.4	0.0
	関数	8	57.6	57.6	58.0	▲ 0.4
	資料の活用	4	61.8	59.3	59.1	2.7
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	0				
	数学的な技能	15	69.7	68.1	68.2	1.5
	数量や図形などについての知識・理解	21	66.9	66.4	66.8	0.1
問題形式	選択式	18	64.4	64.0	64.4	0.0
	短答式	18	71.7	70.2	70.4	1.3
	記述式	0				

- 分数の計算や指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めること、数量を文字式で表すことは、相当数の生徒ができています。〔A 1 (1)〕〔A 2 (3)、(4)〕
- 式変形と移項の対応についても、相当数の生徒が理解しています。〔A 3 (1)〕
- 数量の大小関係を不等式に表すことに課題があります。〔A 2 (1)〕
- 線対称な図形を完成することは、相当数の生徒ができています。〔A 4 (1)〕
- 図形の性質を証明することについて着目すべき図形を指摘することはできています。〔A 8〕
- 図形の回転移動におけ角の対応を読み取ることに課題があります。〔A 4 (3)〕
- 円錐の体積を、円柱の体積と関連付けて理解することに課題があります。〔A 5 (4)〕
- 多角形の内角の和を求める式の意味の理解に課題があります。〔A 6 (3)〕
- 関数の意味を理解すること、グラフと表を関連付けて反比例を理解すること、一次関数の変化の割合を理解することに課題があります。〔A 9〕〔A 10 (4)〕〔A 11 (1)〕
- 度数分布から相対度数を求めることに課題があります。〔A 13 (1)〕
- ヒストグラムにおいて中央値の意味を理解することに課題があります。〔A 13 (2)〕

【中学校数学B】



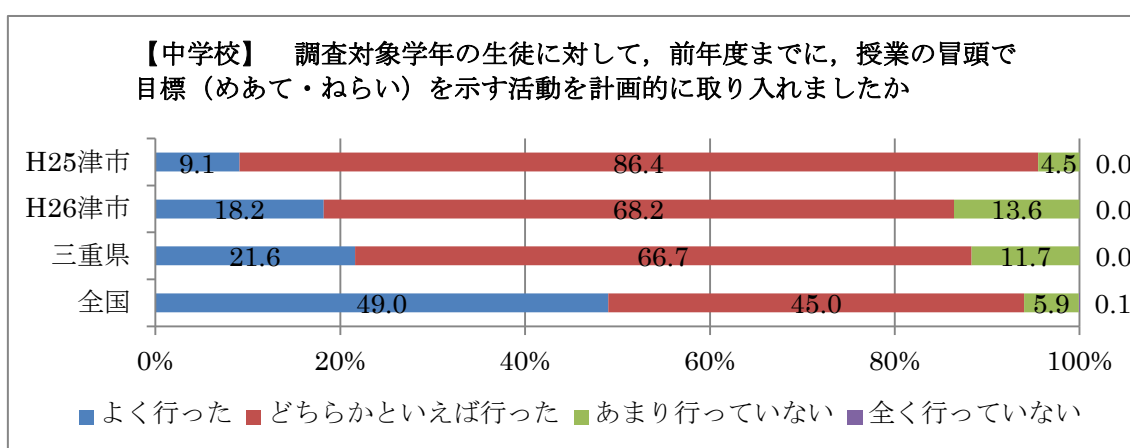
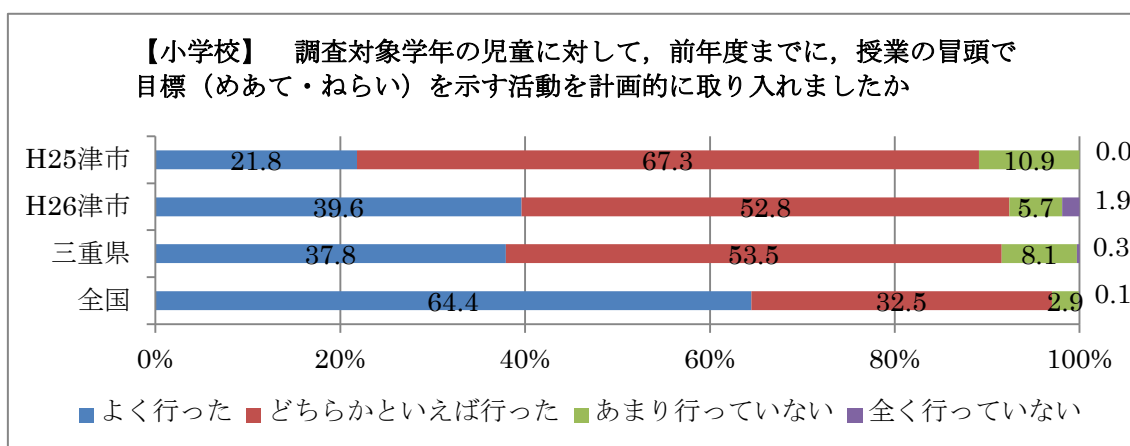
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)			全国との差 津-全
			津市	三重県(公立)	全国(公立)	
平均正答率		15	58.8	58.3	59.8	▲ 1.0
学習指導要領の領域等	数と式	3	56.8	55.5	56.9	▲ 0.1
	図形	5	58.6	57.6	58.6	0.0
	関数	5	61.8	62.4	64.4	▲ 2.6
	資料の活用	2	54.5	53.7	55.9	▲ 1.4
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	14	56.8	56.3	57.9	▲ 1.1
	数学的な技能	0				
	数量や図形などについての知識・理解	1	86.4	86.1	87.5	▲ 1.1
問題形式	選択式	3	82.6	81.8	83.2	▲ 0.6
	短答式	6	62.5	62.0	63.3	▲ 0.8
	記述式	6	43.1	42.7	44.8	▲ 1.7

- 予想された事柄が成り立たないことを判断し、その理由を説明することに課題があります。〔B 2 (3)〕
- 図形の性質を証明することについて、着目すべき図形を指摘することはできていますが、構想を立てて証明することに課題があります。〔B 4 (1)〕
また、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄を基に、発展的に考えることに課題があります。〔B 4 (2)〕
- グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を数学的に説明することに課題があります。〔B 6 (3)〕
- 不確かな事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現(確率)を用いて説明することに課題があります。〔B 5 (2)〕

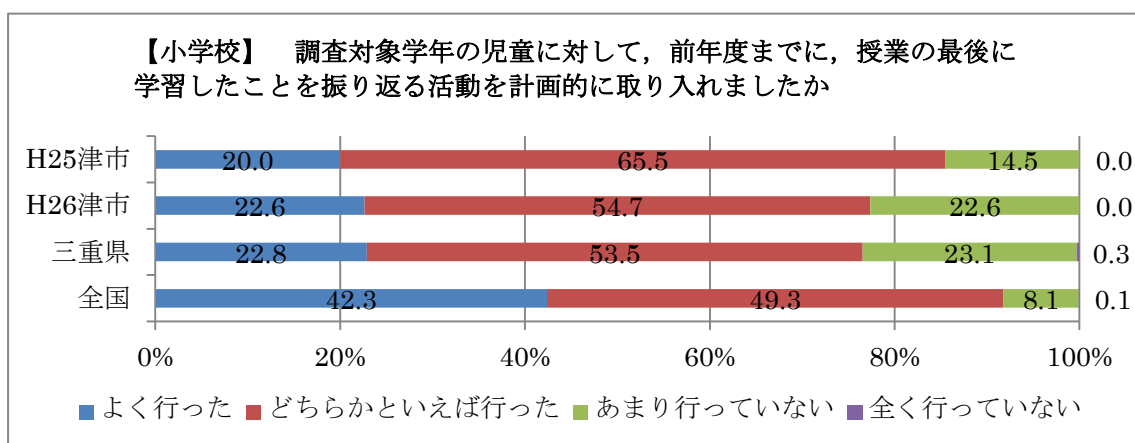
(2) 生活習慣や学習環境等についての調査

① 学校質問紙の結果

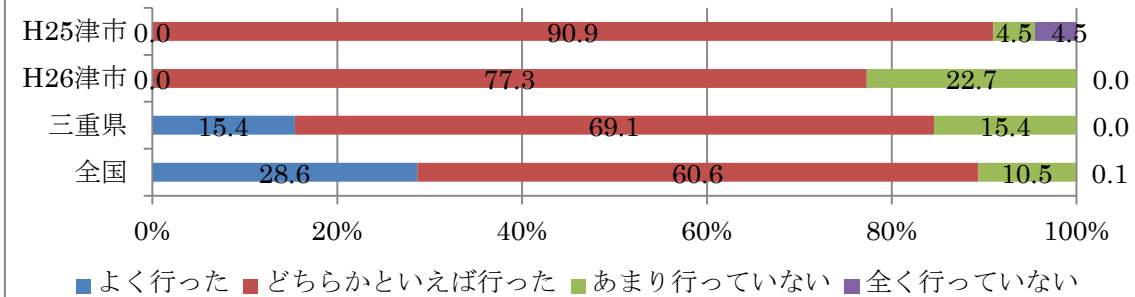
- 授業の冒頭で、目標（めあて等）を示す活動を、よく行った割合は、向上していますが、全国平均と比べると低い状況にあります。



- 授業の後に学習したことを振り返る活動を行った割合が低い状況にあります。

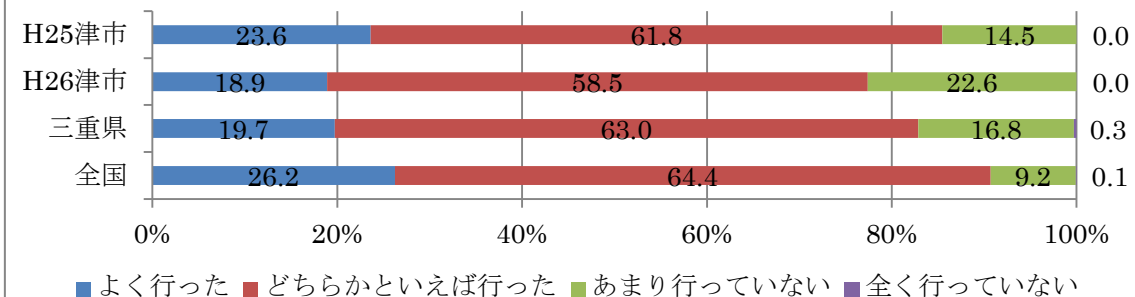


【中学校】 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

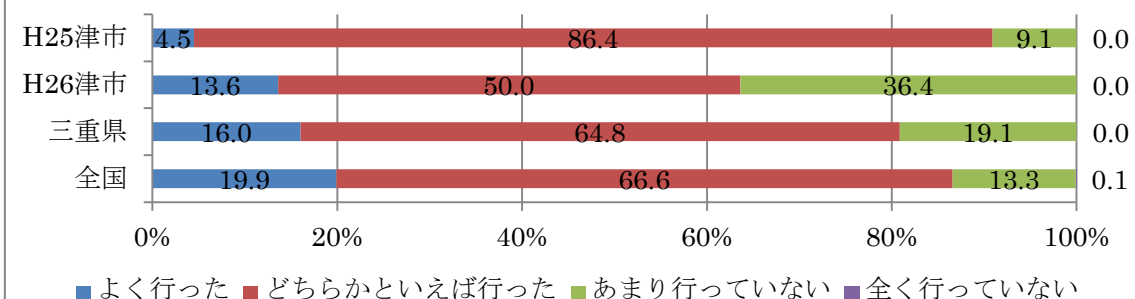


- 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした割合は、中学校で向上しているが、全国平均と比べると低い状況にあります。

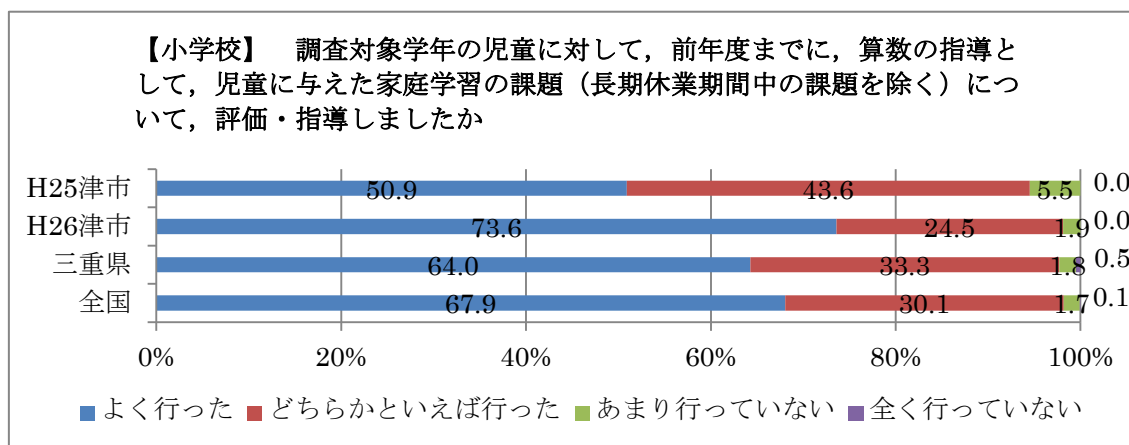
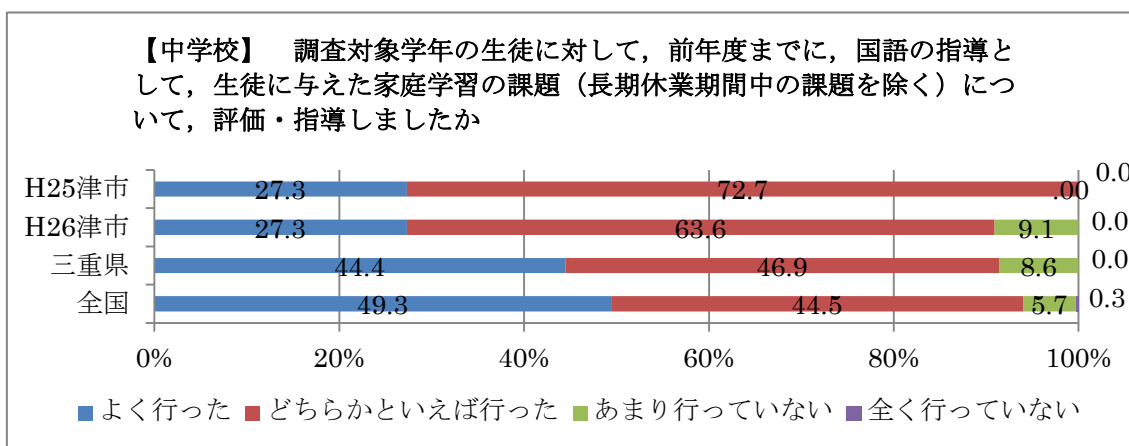
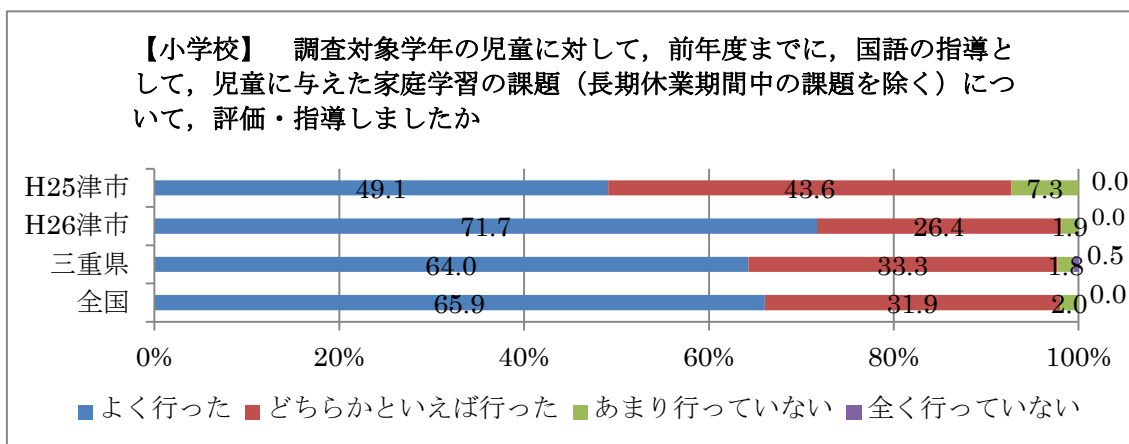
【小学校】 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



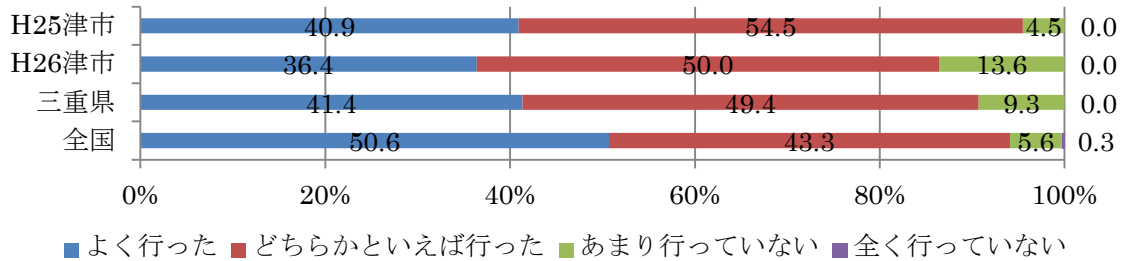
【中学校】 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



- 家庭学習の課題について評価・指導をよく行った割合は、小学校で大きく向上しました。中学校は、全国平均を下回っています。

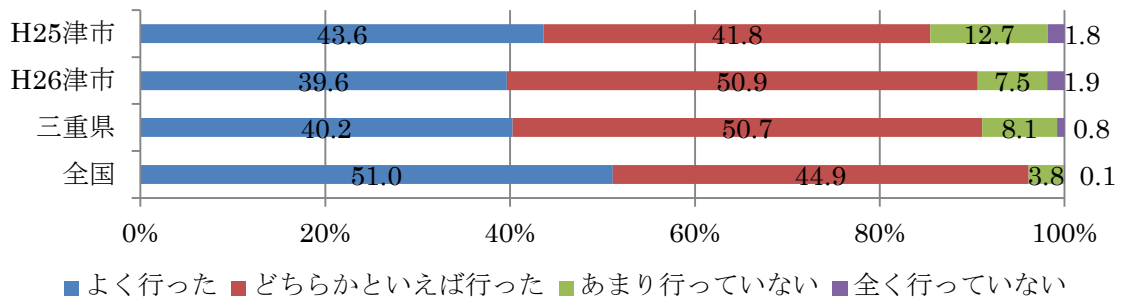


【中学校】 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、数学の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導しましたか

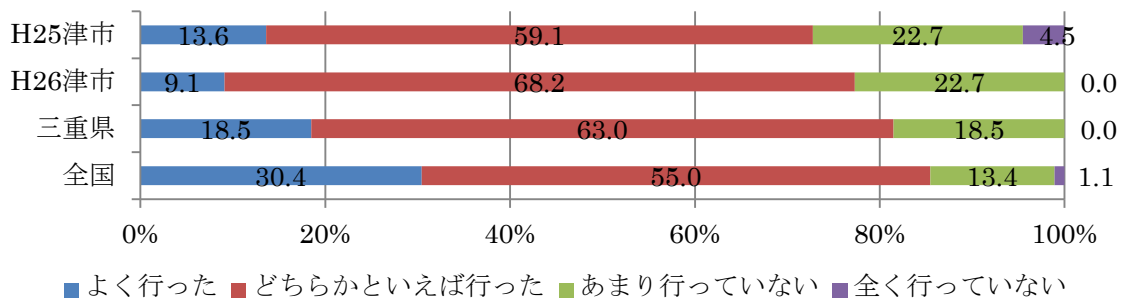


- 保護者に対して、児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをよく行った割合は、中学校で低い状況にあります。

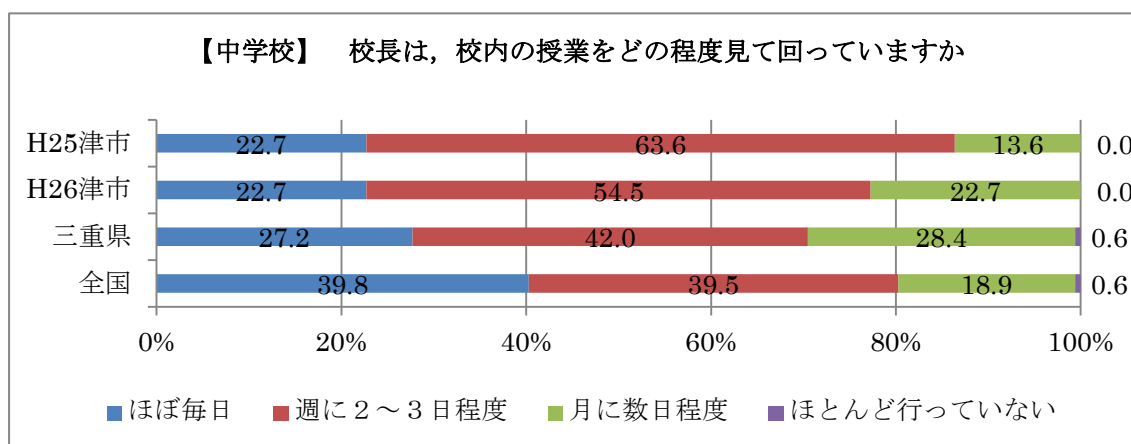
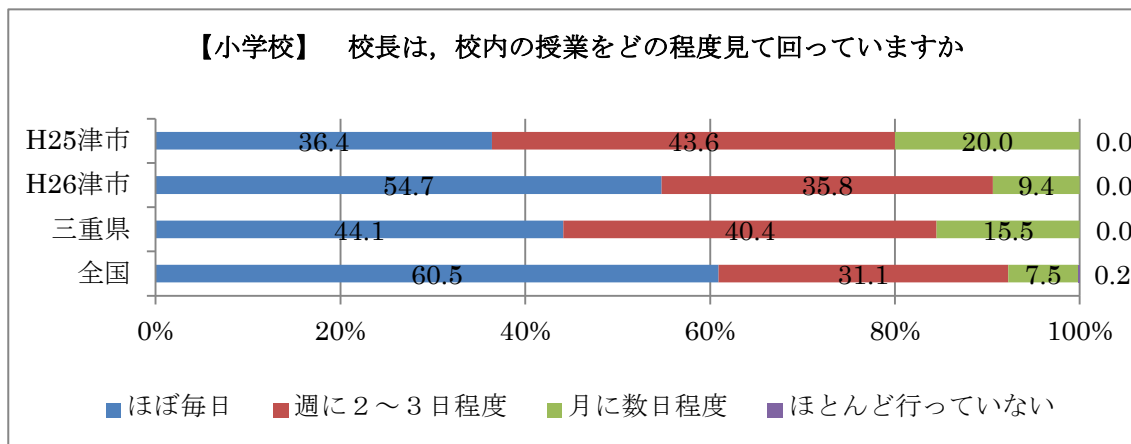
【小学校】 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか



【中学校】 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか



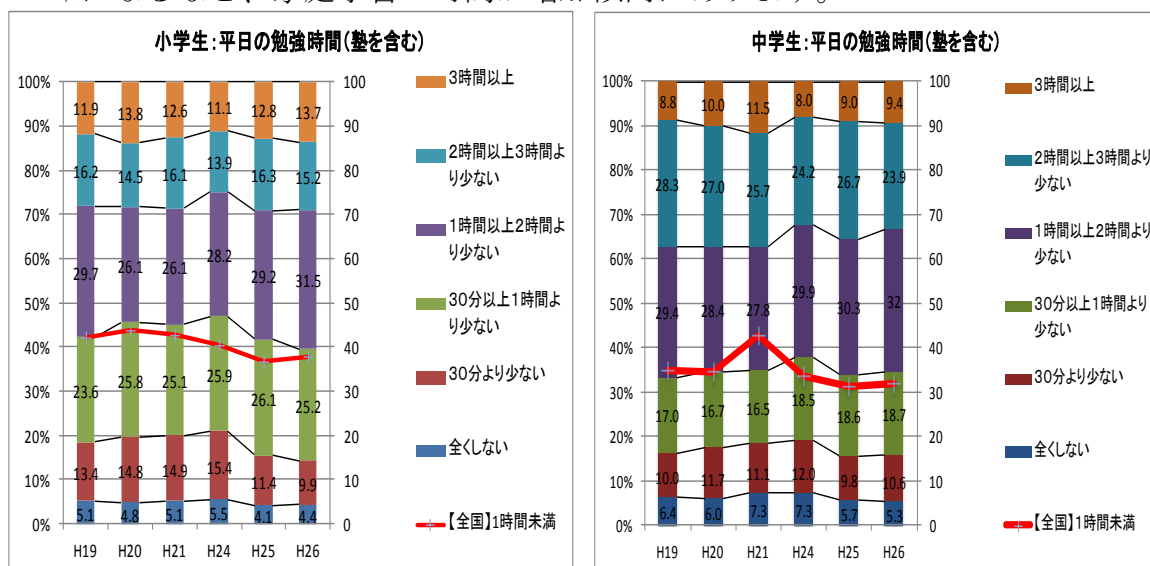
- 学校長が校内の授業を、ほぼ毎日見て回る割合は、小学校で向上しています。ただし、小学校、中学校ともに、全国平均より低い状況にあります。



② 児童生徒質問紙の結果

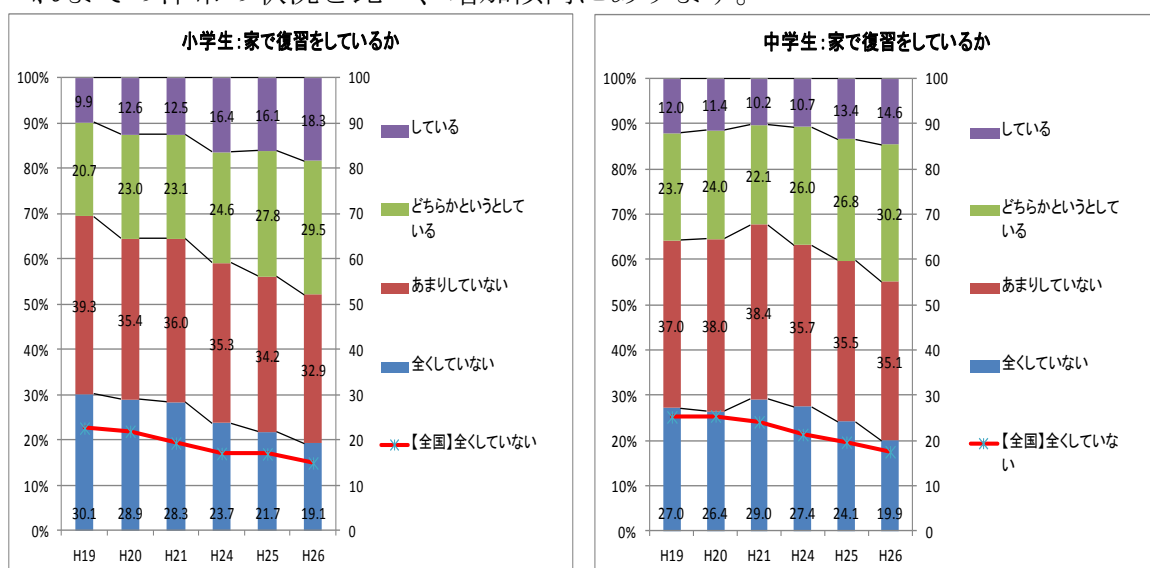
【家庭学習】

平日の家庭学習（塾や家庭教師を含む）を「全くしない」または「30分より少ない」の割合は、小学生・中学生ともに全国平均と同等である。小学生では、平成24年度から徐々に増加し、「1時間以上」の割合が約60%になるなど、家庭学習の時間が増加傾向にあります。



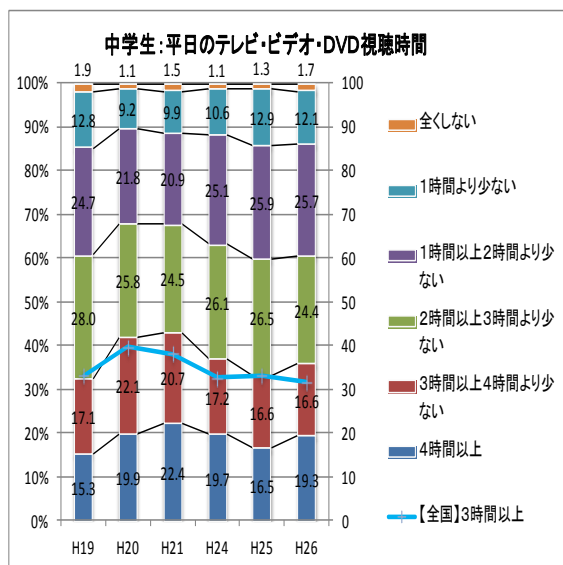
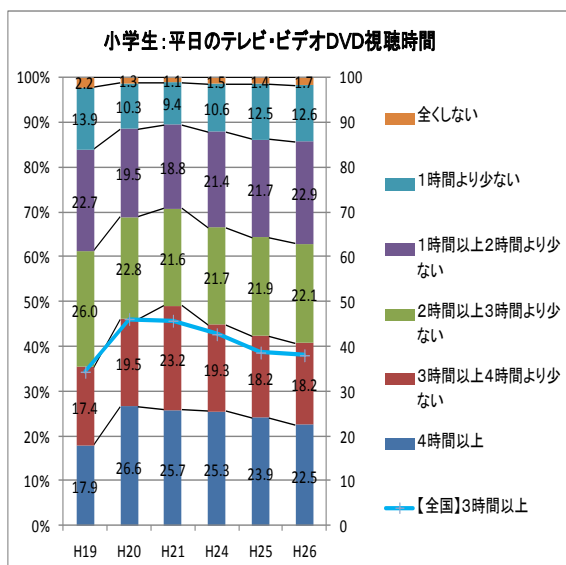
【授業の復習時間】

家で復習を「全くしない」割合は、中学校では全国平均との差が縮まりましたが、依然として全国より高い状況にあります。小学生・中学生とも、「している」または「どちらかというとしている」の割合は、これまでの津市の状況と比べ、増加傾向にあります。



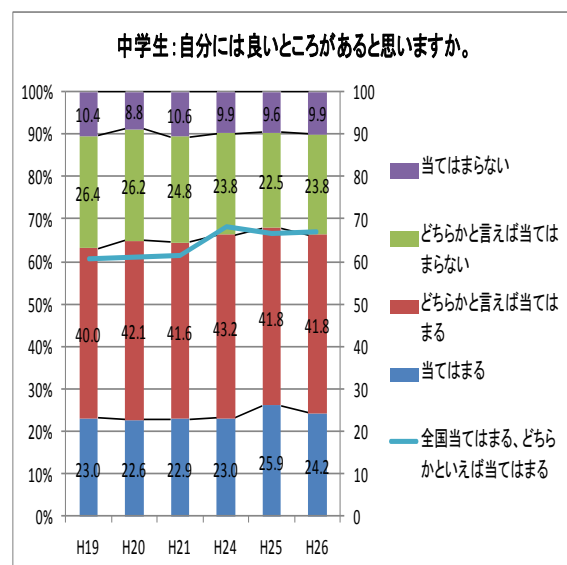
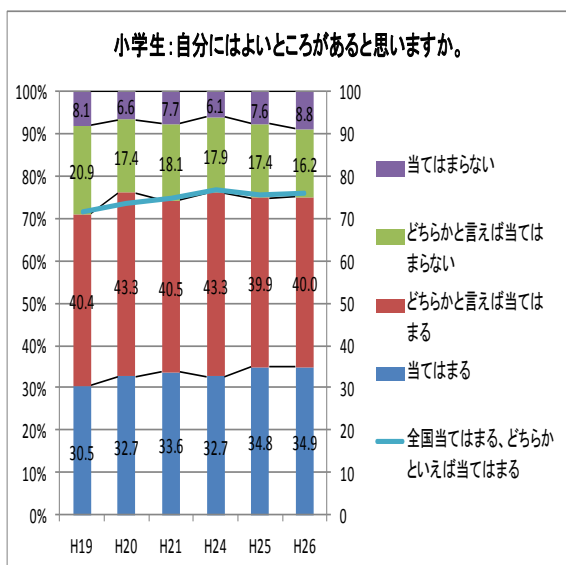
【テレビやビデオ・DVDの視聴時間】

小学生では、テレビやビデオ・DVDを3時間以上視聴している割合は、やや減少しているものの40.7%あり、依然として全国平均の38.0%より高い状況にあります。中学校では、テレビやビデオ・DVDを3時間以上視聴している割合は、全国平均は31.5%で前年度より減少しているのに対して、津市は35.9%で、前年度より増加しています。



【自尊感情】

小学生・中学生ともに、自分には良いところがあると「思っている」「どちらかと言えば思っている」の割合が全国平均とほぼ同じです。



3 今後の改善方策

【津市教育委員会】

(1) 授業改善の推進

授業改善を学力向上への重点ととらえ、積極的に指導主事を派遣していきます。その際、各学校の状況に応じた学習指導の充実と継続的な課題である、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決する力をつける指導の充実という二つの観点で、次のような方策に取り組みます。

- ① 児童生徒が学習の見通しを持ち、主体的に授業に取り組むために、「学習のめあて」を提示するとともに、学習内容の確実な定着を図るために、「振り返る活動」を位置づけます。また、それらの指導を充実させるために、教員用の手引きを作成します。
- ② 伝えたいことや根拠を明らかにしながら、自分の考えを記述できるようにするなど「書く力」の向上に取り組みます。そのために、自分の考えやそのように考えた理由について、発言するだけでなく、「書く」活動を授業に位置づけます。また、「読書リスト」を活用して幅広い分野の本を読み、感想や意見などを書く取組も推進します。
- ③ 児童生徒一人ひとりが学習課題に向き合い、考えを深めるために、ペア学習やグループ学習を取り入れた仲間どうしの「学び合い」を大切にした授業づくりを支援します。
- ④ 小中一貫教育の授業カリキュラムの研究を生かし、活用力を育成するための指導事例を中学校区が共有することで、課題改善に対する小中一貫教育の取組の充実を図ります。

(2) 教育環境の整備と活用

- ① 「一斉学習」や「個別学習」、「グループ学習」等、それぞれの場面でICT機器や教育ソフトを有効に活用できるように、教職員向けの研修会を積極的に実施します。
- ② 「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能が十分発揮されるように、学校図書館の整備を推進します。

(3) 保護者や地域との連携

- ① 全国学力・学習状況調査の調査結果を公表し、家庭での学習状況や基本的な生活習慣の改善に向けて保護者の理解と協力を図ります。

- ② 地域のよさを生かした特色ある教育活動を推進するとともに、地域全体で児童生徒を見守り育てることをとおして、安心して学べる環境づくりを図ります。

【各小中学校】

調査結果を詳細に分析し、課題を明らかにするとともに、それらを全教職員で共有し、課題改善に向けた取組を組織的に進めます。

- (1) 授業改善（各学校の状況に応じた改善及び活用力の育成）
 - ① 「学習のめあての提示」と「振り返る活動」を位置づけた授業
 - ② 理由を明らかにして自分の考えを書く活動
 - ③ 仲間どうしの「学び合い」を大切にした授業
- (2) 読書活動の推進に向けた、目標を定めた読書指導
 - ① 読書リストの活用による幅広い分野の読書活動
 - ② 書く活動を位置づけた、読書ファイルの活用
- (3) 家庭学習の充実に向けた指導
 - ① 提出した課題についての指導と評価
 - ② 課題の与え方について教職員間の共通理解
- (4) 家庭・地域との連携を基盤とした、家庭学習の定着や生活習慣の改善
- (5) 小中一貫教育の趣旨に基づいた、組織的・系統的な指導